

# 山形市の公民連携の取り組みについて

山形市

企画調整部 企画調整課

## 1. 山形市について

山形市は、最上義光57万石の城下町として発展し、江戸時代には紅花商人のまちとして、明治以降は山形県の県都として行政の中心的役割を担ってきました。平成31(2019)年4月には中核市に移行し、山形連携中枢都市圏(村山地域7市7町)を形成しています。松尾芭蕉が訪れたことで知られる山寺立石寺や、氷と雪の芸術「樹氷」が見られる蔵王温泉スキー場など、自然や歴史が織りなす地域資源にあふれるまちです。山形盆地に位置し、寒暖差が大きく良質の水に恵まれた環境にあり、四季折々の美味しい食を楽しむことができます。数多くのそば店、ラーメン店が立地し個性を競いあう麺王国でもあります。また、東北夏祭りの一つ「山形花笠まつり」や直径6.5mの大鍋で作る「日本一の芋煮会」など四季折々に様々なイベントを開催しています。



山形花笠まつり



日本一の芋煮会

## 2. 2大ビジョンについて

本市は「健康医療先進都市」「文化創造都市」を2大ビジョンに掲げ、まちづくりを進めています。

～「健康医療先進都市」～

市内には、山形市立病院済生館をはじめとする総合病院が数多く立地し、人口1人当たりの診療所数も多いまちです。令和3年2月から東北で初となる次世代型重粒子線がん治療が山形大学医学部で開始されるなど最先端の医療を提供しています。

また、豊かな自然環境と高品質で安全・安心な食にも恵まれ、健康な生活を送るために必要な基盤が整っています。このような強みを活かしながら医療と健康を核とした「健康医療先進都市」の確立を目指しています。

## ～「文化創造都市」～

本市は、文化芸術活動が盛んなまちでもありません。山形国際ドキュメンタリー映画祭を隔年で開催するほか、オーケストラ「山形交響楽団」を擁し、さらには総合的な芸術大学である東北芸術工科大学が立地し、まちづくりに積極的に関わっています。そうした多彩な文化芸術活動が高く評価され、平成29年10月、日本で初となるユネスコ創造都市ネットワークの映画分野で加盟認定を受けました。

こうした文化芸術資源を強みに、多くの人々との関わり合いにより新たな価値を創造し、産業振興と地域振興につなげ、持続可能なまちづくりを目指すため、「文化創造都市」をビジョンとして掲げています。

## 3. 公民連携について

本市では、より良い市民サービスを提供していくため、民間活力を広く活用した行政運営を進めています。

平成20年4月、本市初となるPFI手法を導入した「学校給食センター」の改築工事を皮切りに、同手法により「山形市南部遊戯施設 シェルターインクルーシブプレイス コパル」、「山形市立商業高等学校」、「山形市立南沼原小学校」を整備。令和5年12月オープン予定の「道の駅やまがた蔵王」はDBO方式により整備を進めています。加えて今後、改築を行う「市民会館」も民間活力の導入を予定しています。

施設の新設以外でも、閉店し空き店舗となっている老舗百貨店「旧大沼」及び有形文化財である老舗料亭「旧千歳館」の利活用、老朽化が進む「山形市少年自然の家」の今後の在り方について、サウンディング型市場調査を実施し、民間事業者のノウハウやアイデアを活かした取り組みを進めることとしています。

また、国の制度を活用して、観光・公共交通

等の分野に強みを持つ民間人材を受け入れ、地方創生の取り組みを進めています。

本稿では、本市が取り組んでいる公民連携の具体的な内容についてご紹介します。

## 4. 主な取り組み

### (1) PFI事業(BTO方式)

#### ～山形市南部児童遊戯施設「シェルターインクルーシブプレイス コパル」～

市北部に設置した児童遊戯施設の利用者が大きく増加し、混雑の解消や市全域での子育て支援機能充実が求められていたことから、市内2か所目となる児童遊戯施設を市南部に整備しました。「インクルーシブ」は、包み込むという意味で、障がいの有無や程度等に関わらず、誰もが分け隔てなく楽しく遊べる施設を目指し、建物全体がそのコンセプトを体現したものとなっています。令和4年4月にオープンし、令和5年7月には、来館者20万人を達成しています。

また、蔵王連峰にたなびく雲を思わせる印象的な大屋根や建物全体をスロープでつないだ建築が全国的に注目を集め、数々の賞を受賞するなどデザイン的にも高い評価を受けています。

#### ◆「インクルーシブ」な施設を目指して

整備にあたっては、事業者の提案により「創造会議」と呼ぶワークショップを開催しました。「創造会議」は地元振興協議会、有識者、学校関係者、事業者、行政等のメンバーで構成され、施設の設計・建設、運営面やコパルのコンセプトである「インクルーシブ」について、専門的な視点や利用者の視点を事業に反映させることを目的に、約2年間で全10回開催しました。

PFI事業においては、一般的に提案書も契約内容に関わる資料であり、提案内容の変更は容易ではありませんが、市においても良いものは認めていくことを決め、「創造会議」でいただいた意見を取り入れ、当初のプランからブラッ

シュアアップさせながら進めたことで、より良い施設整備につながったものと考えています。



シェルターインクルーシブプレイス コパル (山形市南部児童遊戯施設)

## (2) DO 方式による施設整備

### ～やまがたクリエイティブシティセンター Q1 (キューイチ) 整備事業～

昭和2年に建設され、国の登録有形文化財に登録されている山形市立第一小学校旧校舎をリノベーションし、「創造都市」の拠点施設として整備しました。

本整備事業は、令和元年度に Q1 プロジェクト推進事業としてスタートし、東北芸術工科大学との連携協定に基づき、Q1 プロジェクトの推進を目的に設立された「株式会社 Q1 (運営事業者)」と本市が公民連携の手法で推進しました。運営事業者が設計とテナントリーシングに携わることで、テナントのニーズを設計に反映しながら、登録有形文化財に登録されている歴史ある建物の魅力を最大限に引き出すよう工夫しています。地下1階～地上3階の造りで、旧校舎のレトロな雰囲気を活かしたテナントスペースをはじめ、オフィス、ギャラリー、レンタルスペースを備えています。令和4年9月1日にオープンし、令和5年5月25日には来館者10万人を達成しています。

## ◆「文化創造都市」を目指して

Q1 を拠点に、山形市の文化芸術や食、伝統工芸など多彩な地域資源を地元企業や多くの人々との連携により磨き上げ、新たな事業・商品・サービス・人材などを創出することで、地域経済や中心市街地の活性化につなげていく場所にしたいと考えています。



やまがたクリエイティブシティセンター Q1

## (3) 企業版ふるさと納税の活用×包括連携協定による事業①

### ～女性人材育成事業 (まち、わたし、きらめく Women's Campus 山形) ～

女性活躍推進法が施行されるなど女性活躍の推進が求められていますが、本市では、若年女性の転出超過や、出産・育児のため離職したまま社会とのつながりが希薄になってしまうなど、多くの能力のある女性はその能力を発揮する機会が少ないことが課題となっています。

こうした課題を解決するためには、仕事や生活面で女性にとって暮らしやすく魅力的な地域づくりが必要です。そのために、企業・地域で活躍する女性リーダーを養成することが必要と考えましたが、人材育成のノウハウが不足しているという問題点が浮上しました。そこで、社会問題解決に取り組んでいる株式会社 Ridilover (リディラバ) と、女性活躍の先進企業である資生堂ジャパン株式会社の女性人材育

成のノウハウを活かし、事業を進めることとしました。

#### ◆「女性が輝くまち山形」を目指して

この女性人材育成プログラムをきっかけとして、企業における女性活躍への理解が少しずつ進んでいます。令和4年度参加者が、自社内での新規事業を立ち上げるなど、この取り組みが着実に実を結び、女性活躍推進の機運の高まりや、意識変化につながっていると捉えています。

今後も、あらゆる場面において女性が活躍する「女性が輝くまち山形」の実現に向け、これまで得た民間企業のノウハウを活かしながら、企業・地域で活躍する女性リーダーの養成を継続していく予定です。



ワークショップ

#### (4) 企業版ふるさと納税の活用×包括連携協定による事業②

##### ～やまがた創生プロジェクト研究～

企業版ふるさと納税を活用し、寄附者である株式会社モリサワ、事業構想にノウハウを持ち、新事業の開発を目的とした日本で唯一の大学である事業構想大学院大学それぞれと山形市が連携協定を締結し、地域課題解決に資する新規事業を構想する公民協働のやまがた創生プロジェクト研究を実施しています。全20回の研究会を経て考案された新規事業構想は、雇用の創出や人材育成、児童や高齢者への支援など、誰もが安心して心豊かに暮らせる持続可能なまちづ

くりの実現につながるものであり、本市としてもこの事業実現に向けて、バックアップしていきます。

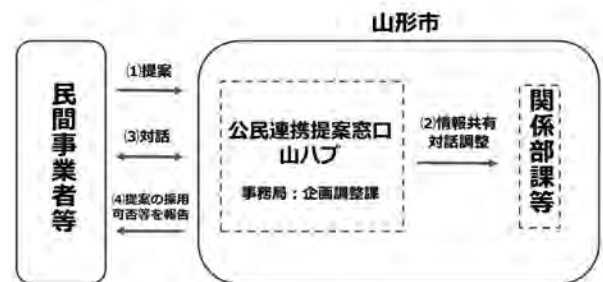


やまがた創生プロジェクト研究発表会

## 5. さらなる公民連携に向けて

多様化・複雑化する行政課題に対応し、より質の高い市民サービスを提供していくためには、民間事業者等が持つより柔軟なアイデア・ノウハウを活かし、連携していくことが今後一層求められます。

そこで、本市が抱える課題を外部に提示し、解決に向けた提案を広く募集するため、「山形市公民連携提案窓口【山ハブ】」を本市ホームページ内に設置し、9月から運用を開始しました。こうしたスキームを活用しながら、今後も、公民連携により課題解決に取り組んでまいります。



山形市公民連携提案窓口【山ハブ】